

# □ 第9回武蔵野市国際 オルガンコンクール

浅岡弘和

武蔵野市は1988年以来、4年に一度パイプオルガンの設置された武蔵野市民文化会館小ホールを会場に国際オルガンコンクールを開催。受賞者から多くの優れたオルガニストを輩出して来た。

2021年に行われる予定だった第9回は新型コロナウイルス流行の影響を受け2年間延期。再開となった今回は2023年9月に開催され、16カ国から67名応募と見事に復活。動画審査を通過した10カ国15名が1次予選に進み、そして8人が2次予選に、さらに厳選された5名のオルガニストが本選に進んだ。なお予選と本選の様子はYouTubeで視聴可能で、一般ファンも順位予想などをしてバーチャルな審査員体験を楽しんでいたようだ。

17日の本選は五人の進出者がそれぞれ自分で企画した40分から50分の休憩なしのミニコンサートを行うという趣向で必ず21世紀作品を含めることという条件付き。音の強弱や鍵盤のタッチが自由にならず、とかく弾きき?のようになりがちで演奏力の差が表れ難い楽器だけに企画力というかプロデュース力が物を言ったようだが、取り敢えずはまず選曲のセンスが問われ、さらにそれをどう並べストーリーを作るかが問題か。

## 〈演奏者と曲目(演奏順)〉

- ダニエル・ミニック(アメリカ/オーストラリア)  
メンデルスゾーン/オルガンソナタ第3番 イ長調  
J.S.バッハ/幻想曲とフーガハ短調BWV537  
アントニ・ファン・ノルト/「詩篇と幻想曲集」から詩篇第24番  
シャルル＝マリー・ヴィドール/オルガン交響曲第10番「ロマネスク」からコラール  
バーリント・カロシ/バルトークを偲ぶオルガンのためのトッカータ(2006)
- アレクサンダー・リトル(イギリス)  
ブクステフーデ/トッカータニ短調  
J.S.バッハ/いと高きところにいます。神にのみ栄光あれ  
BWV662  
ニコ・ミュラー/マスタートド牧師の就任 前奏曲(2013)  
ルイ・ヴィエルヌ/幻想小曲集からトッカータ  
ジャン・ラングレー/「フレスコバルディへのオマージュ」から主題と変奏、エピソード  
ヴィドール/オルガン交響曲第5番からアレグロ・ヴィヴァーチェ
- 濱野芳純(日本)  
トマ・ラコト/燃え上がる沖集土(2006)  
ジャン・アラン/幻想曲第1番、第2番  
ヒンデミット/オルガンソナタ第3番  
デュリュフレ/「組曲」からシシリエンヌ  
マルセル・デュブレ/前奏曲とフーガ短調
- 東方理紗(日本)  
J.S.バッハ/トッカータとフーガハ長調BWV566  
ジグモンド・サットマリー/オルガンソロのためのルービック  
キューブ(2022)  
ジークフリート・カルク＝エーレルト/「コンスタンズ湖の七つのパステル」から『星への讃歌』  
西村朗/オルガンのための前奏曲「焰の幻影」  
カルク＝エーレルト/「コンスタンズ湖の七つのパステル」から『太陽の夕べの祈り』  
ヴィエルヌ/オルガン交響曲第6番から終楽章

- ニクラス・ヤン(ドイツ)  
J.S.バッハ/トッカータとフーガハ長調BWV540  
細川俊夫/雲景  
サットマリー/火の洗礼(2004)  
ヴィエルヌ/オルガン交響曲第6番から終楽章  
この日は4人目の東方が弾いていた、奇しくも先日亡くなった西村氏の作品中でオルガンにアクシデントが発生、30分ほど中断するハプニングも起こったものの、必死の修理で何とか無事終了し、武蔵野市長松下玲子氏の臨席の下、結果発表と授賞式が行われた。

## 〈結果〉

- 第1位 ニクラス・ヤン
  - 第2位 東方理紗
  - 第3位 濱野芳純
  - 第4位 ダニエル・ミニック
  - 第5位 アレクサンダー・リトル
- \*今回新たに設けられた聴衆賞はアクシデントにもめげず完奏した東方理紗が受賞。

以下、上位3人の演奏の感想を述べてみると、1位のヤンの選曲はまずバッハのBWV540でオーソドックスに開始され、中核には細川やサットマリーの鮮烈な現代作品が置かれていた。そして最後はヴィエルヌのオルガン交響曲で華麗に決めるという理想的なもの。2位の東方も同様な感じで、やはりまずバッハのトッカータとフーガから入ったがこちらはBWV566で、次は最近復権著しいカルク＝エーレルトの「コンスタンズ湖の七つの～」の終曲である7番と5番で西村作品をサンドイッチ。前述のアクシデントで中断したのはこの「焰の幻影」だった。そして最後はヤンとまったく同じくヴィエルヌで締めたが、上位2者のプログラミングにこのような共通点があったのは興味深い。3位の濱野は最初のラコトの現代物以外は20世紀初頭の作品でまとめて、このホールのオルガンの音響に適したものを選んでいたのである。

## 〈日程〉

- 9月6日(水):オリエンテーション  
9日(土)・10日(日):第1次予選  
13日(水)・14日(木):第2次予選(この日のみ東久留米市の聖グレゴリオの家にて開催)  
17日(日) 本選  
18日(月・祝):入賞者披露演奏会

## 〈賞品など〉

- 参加料 15,000円  
第1位:賞状、賞金120万円、副賞①CDをNaxosレーベルより世界発売する。②2025年度にミュゼ川崎など日本での演奏の機会を与える。  
第2位:賞状、賞金80万円  
第3位:賞状、賞金60万円  
第4位以下(本選出場者に授与)賞状  
聴衆賞(本選出場者の中から聴衆の投票により選出された者に授与)賞状、記念品

## 〈審査委員〉

- イヴ・レヒシュタイナー(スイス)委員長、リヨン国立高等音楽院教授  
ファッサン・ラスロ(ハンガリー) プダバスト芸術宮殿レジデントオルガニスト  
廣江理枝(日本) 東京藝術大学教授  
キム・ジスン(韓国) ソウル神学大学教授  
マティアス・マイヤー・ホーファー(オーストリア) フライブルク音楽大学教授  
トマ・オスピタル(フランス) パリ国立高等音楽院教授  
クシシュトフ・ウルバニアク(ポーランド) ウッチ国立音楽大学教授  
主催:第9回武蔵野市国際オルガンコンクール組織委員会  
共催:武蔵野市 公益財団法人 武蔵野文化生涯学習事業団